全国港湾4役、単組委員長 新年のあいさつ

全国港湾・松本耕三

新年あけましておめでとうございます。

近年における競争は、従来のコスト削減と効率化による人件費削減の競争から、労働力の確保、人材確保による安定運営をめぐる競争の度合いが強まっているといわれています。人口減少による労働力不足といわれていますが、実態は、低賃金とか重労働というイメージにより敬遠される事業が多いのも実態です。

われわれ港湾にとっても人材確保、労働者補充は重要課題です。港湾がＳＫＹ労働（きつい、危険、汚い）といわれていた時代から、産別運動の中で、労働条件の引き上げ、安全で衛生的な労働環境の確立を進めてきました。しかし、若年労働者やこれから社会に出ようとする学生にとって、このような中身が理解されていないのが実態ではないでしょうか。

わたしたちは、「魅力ある港湾労働」をもっと内外に明らかにしていく必要があるのではないでしょうか。港湾労働が、青年たちが未来を託す仕事であり、人生を輝くものにするための職業であることをわかってもらわなければなりません。

そのためには、港運労使の今日までの努力の結果である産別協定を活用すべきだと考えています。もちろん、わたしたちは現行の産別協定は改善しなければならないことで、一九春闘方針の討議を行っています。しかし、一方で、わたしたちの産別協定は多くの物流産業の中で誇れるべきものであり、産別協定を通して港湾労働のすばらしさを伝えなければならないのです。

現在、最低賃金制度についての産別協定が独禁法に抵触するとの問題になっているのが、労使にとって不幸なことです。この問題は、港湾労働者の労働条件のためであるとともに、港湾産業の発展のためにも、何としても解決しなければなりません。

今、自民党は消費税大増税を強行しようとしています。景気に対する影響は大きなものがあり、港湾を取り巻く情勢は厳しくなっていきます。我々、港湾産業別労働組合の役割はますます重要になってきています。全国港湾の発展のために、ともに頑張っていきましょう。

全港湾・真島勝重

謹んで新春をお祝い申し上げます。「和氣致祥」私がよく書初めに使った四文字熟語です。みんなが心を一つにすれば、必ず幸せは訪れる。そのような年にみんなでしていきましょう。

さて、日本の港湾は、激動の転換期を迎えています。港湾に限らず、自動化の波が押し寄せ、労働力不足が深刻化しています。時代に乗り遅れるなと、多くの産業が政府の言うなりに政策を推進する立場で奔走しています。しかし、自動化や外国人労働者受け入れなど、所謂、労働者の視点から見れば、明らかな政府による正面切っての合理化政策です。合理化反対を掲げる労働組合が立ちはだからざるをして、世間の風潮によって流されてはいません。

私自身、機械化が進み、作業が軽減化になることは反対しませんが、その先に訪れる可能性が大きい人員削減など合理化については反対です。現在の日本の港湾労働者に対する雇用、職域、労働条件の担保が全く見えていません。また、外国人の働くことが良いとか悪いではなく、日本の外国人技能実習制度に大いに問題ありと捉えています。港湾は一人作業ではなくチームワーク作業で形成されています。一定の意思疎通はもちろんのこと、安全対策の徹底や労働者としての地位の不安定さなど、安価な労働力として広がることに対する不安がまったく払しょくできていません。

このような多くの課題を乗り越えるためには、港湾産別結集しかありません。日本の労働運動で唯一といっても過言ではない産業別労働運動、港湾産別を大切な財産として、自信と誇りをもって、二〇一九港湾春闘を勝ち取らなければなりません。

私は、日本の港湾が十年先、二十年先、次の世代まで魅力ある産業として残っていくために、皆さん一人一人の力をお借りしながら一歩先を見据えた労働運動に努めて参りたいと思っています。この新しい年がより良き年になるよう心より祈念いたしまして、私からの年頭の挨拶とさせていただきます。一緒に頑張りましょう！

検数労連・瀬戸　修

全国の産別の仲間の皆さん、明けましておめでとうございます。

昨年は四年に一度（次回から五年に一度となった）のＩＴＦ世界大会に参加できる機会をいただき組合役員として大変貴重な経験をすることができました。この経験を全国港湾運動に少しでも活かしたい所存です。さて、改めて昨年を振り返ってみると、大きな流れとしては安倍政権の暴走で労働社会がさらに厳しい傾向となったことです。働き方改革でうわべの長時間労働の是正を促していますが、高プロや個人請負など様々な労働実態は解決とはなっておらず、むしろ働かせ放題・企業の責任放棄など野ザル状態とも言えます。

反面で日本の労働者不足を補てんする目的で外国人労働者受け入れを優先的に進めてきました。

社会問題ではつい二ヶ月ほど前に日産ルノーのゴーン会長が複数年に渡る所得申告漏れ（虚偽）で逮捕されました。売上世界第二位までと上り詰めた自動車企業のトップ逮捕は世界中に大きな波紋を投げかけました。また、医科大学入試の不正判定は社会に大きな衝撃を与えました。さらに同様の不正は複数の大学でも行われていたとのことで、日本の教育・医療の不信に繋がっています。自然災害では特に九月の台風二十一号による関西地区の被災や最大震度七を記録した北海道胆振東部地震です。ブラックアウトと呼ばれた大規模停電や避難している市民生活の苦しさが伝えられました。スポーツ競技の世界ではコーチ・監督・団体幹部などのパワハラや不祥事などが明るみになりました。

明るい話題もありました。翁長知事急逝に伴う沖縄知事選挙において、全国港湾も支援したオール沖縄の玉城氏が自公その他の推薦候補を破ったことです。

そして平昌五輪をはじめとする各スポーツ競技大会での日本選手の活躍です。国民栄誉賞を受けたフィギュアスケートの羽生選手、スピードスケートやカーリングの女子、水泳・サッカー・卓球・バトミントンなどでも男女ともに目覚ましい活躍がありました。それから忘れてはならないのはテニス四大大会「全米テニス優勝」の大坂おみ選手です。暮れも迫った十二月下旬に、二〇二五年の万国博覧会の大阪開催が決まりました。経済効果二兆円とも言われ、東京五輪以降、日本の経済維持に向けた国際行事の大きな目玉となります。

港湾では邦船三社のＯＮＥ運用に係わる関係事業者の合併・共同化の方向性が出ています。官民で推し進めているコンテナターミナルのＩＴＴ化・自動化など、これからの港湾のあり方を十分議論すべき時節となっています。地方港問題では坂出港の情勢認識で国交省の談話などが労使協議の報告の中に網羅され、労使間での認識の違いが生じました。また秋田港では、元請けによる取り扱い貨物の拡大申請の動きがあり、地域事前協議の重要性が浮き彫りになっています。産別労使の関係では中労委あっせん課題が残っています、中労委のコメントなどで直接的に結論を求めるのは難しいですが、これまでの全国港湾の運動に自信を持ち段階的にも解決を図っていきましょう。

を目指さなくてはなりません。

その為には全国港湾が中心となって業界団体・関係行政・船社団体・荷主団体への交渉や申し入れ等で粘り強くつづけて行く事が大事です。港湾労働者の雇用と職域を守るべく大阪港湾労働組合は各組合と連携を大切にし、全国港湾の産別運動の強化に取り組んで行きたいと思います。

これから先益々港湾労働者にも厳しい風が吹くと思いますがどんな状況になろうとも全国の仲間の労働環境の向上を目指して仲間と共に一致団結して闘い二〇一九年の春闘勝利に向けて頑張って行きたいと思います。

日港労連・柏木公廣

組合員の皆さん新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。また、年末年始の作業にあたられた組合員の皆さん大変ご苦労様でした。

さて、昨年十二月に発表された二〇一八年の世相を表す漢字として「災」が選ばれました。確かに近年は地球温暖化の影響かもしれませんが勢力の大きな台風の発生や地震等の自然災害が多く発生し、二〇一八年も全国各地で甚大な被害が出ました。神戸港や大阪港では台風による高潮の発生で港湾施設や輸出入貨物に甚大な被害が出て、復旧までに長期間を要しました。また北海道の胆振地方で発生した地震により多くの犠牲者が出ました。この地震により北海道全体がブラックアウトとなり、そして苫小牧港では広範囲に液状化が発生して港湾機能に甚大な被害を与えました。今後も巨大地震などの災害発生が予想されていますので何はともあれ身の安全を第一に考え、災害に備えることが大事ではないでしょうか。

さて二〇一九年は平成最後の年であり五月には新しい元号が発表されます。また四月から施行される「働き方改革」や入管法の改正による外国人労働者の拡大、一〇月には消費税が一〇％に増税される等、激変の年になります。昨年の邦船三社のコンテナ部門の統合に続き、港湾でも日本郵船と三菱倉庫は共同で持株会社を設立し、日本郵船グループの国内港運事業子会社四社を完全子会社として収める経営統合を発表しました。

また最近の人手不足を解消する手段としてコンテナターミナルではＡＩ・ＩｏＴを利用した遠隔操作や自動化が進むのではないかと懸念されますが組合はただ単に省力化だけを目的とした合理化など雇用と職域に影響を及ぼす課題には反対の姿勢を貫き雇用と職域を守りたいと思います。

一九春闘は加盟組織の力を全国港湾に結集して要求実現に向けて共に頑張りましょう。

二〇一九年がご家族を含めた組合員みなさんにとって良い年でありますように、ご祈念申し上げまして新年のご挨拶とさせていただきます。

検定労連・遠藤一幸

組合員の皆様、明けましておめでとうございます。

今年は選挙の年です。憲法蹂躙、国会での偽証、隠蔽、捏造、改竄、民主主義に悖る最悪の現政権に不信任を突きつけるチャンスとも言えます。

昨年末に強行された防衛局による辺野古への土砂投入は、県民の意思を無視し幾重にも違法行為を重ねた国による暴挙でした。自公政権の本質が辺野古問題での対応に象徴的に表れています。政府は十月に消費税率一〇％への引き上げを言明しています。低所得者ほど重税感の強い消費税の増税に、経済学者や国民の多くが反対する中、政府は消費への影響が出ない万全の対策を取ると言います。しかし軽減税率は複雑であり混乱は必至。カードでの買い物へのポイントバックも中小商店はカードが使えない店が多く、中小商店にとっては重圧にしかありません。そしてプレミアム商品券のバラマキです。

安倍首相は今年の増税は社会保障の為だと言っていますが、今年は金支給をマクロ経済スライドで減額しようとも言っています。そして七十五歳以上の後期高齢者への医療費軽減制度も消費税増税に合わせて止めてしまう計画です。

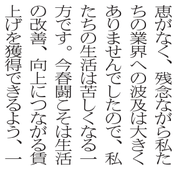
一方では防衛費だけは増え続けており、一基三千億円以上するイージスアショアを二基、一機百億円のＦ35を百機、アメリカから買う事を決めました。

税金の集め方と使い方が間違っています。

今は民主主義の危機であり立憲主義の危機です。こんな政治を続けさせていては私たちの生活は守れないという思いを強く抱きつつ、新年を迎えました。

本年も良い年であります事を祈念いたします。

全倉運・柳野大輔



明けましておめでとうございます。組合員の皆様、ご家族の皆様におかれましては健やかに新年をお迎えのことをお慶び申し上げます。

昨年の春闘での賃上げは、一部の大企業しか恩恵がなく、残念ながら私たちの業界への波及は大きくありませんでしたので、私たちの生活は苦しくなる一方です。今春闘こそは生活の改善、向上につながる賃上げを獲得できるよう、一致団結して全力で闘いたいと思います。

また、今年四月から年次有給休暇の強制取得や、働き方改革関連法の施行が予定されており、多くの企業が対応を求められます。労使の話し合いの中で決められるべきもので、決して我々組合員に不利益をもたらすものであってはなりません。皆様のそれぞれの状況に照らし合わせ、最適な労働環境となるよう考えて頂きたいですし、我々も精一杯バックアップします。更に十月には消費税増税も待ち構えています。我々組合員にも密接に関わる問題ですので、引き続き注視していきましょう。

もちろん、港でともに働く皆さんとも連帯して、国の教育・医療の不信に繋がっています。自然災害では特に九月の台風二十一号による関西地区の被災や最大震度七を記録した北海道胆振東部地震です。ブラックアウトと呼ばれた大規模停電や避難している市民生活の苦しさが伝えられました。スポーツ競技の世界ではコーチ・監督・団体幹部などのパワハラや不祥事などが明るみになりました。

明るい話題もありました。翁長知事急逝に伴う沖縄知事選挙において、全国港湾も支援したオール沖縄の玉城氏が自公その他の推薦候補を破ったことです。

そして平昌五輪をはじめとする各スポーツ競技大会での日本選手の活躍です。国民栄誉賞を受けたフィギュアスケートの羽生選手、スピードスケートやカーリングの女子、水泳・サッカー・卓球・バトミントンなどでも男女ともに目覚ましい活躍がありました。それから忘れてはならないのはテニス四大大会「全米テニス優勝」の大坂おみ選手です。暮れも迫った十二月下旬に、二〇二五年の万国博覧会の大阪開催が決まりました。経済効果二兆円とも言われ、東京五輪以降、日本の経済維持に向けた国際行事の大きな目玉となります。

港湾では邦船三社のＯＮＥ運用に係わる関係事業者の合併・共同化の方向性が出ています。官民で推し進めているコンテナターミナルのＩＴＴ化・自動化など、これからの港湾のあり方を十分議論すべき時節となっています。地方港問題では坂出港の情勢認識で国交省の談話などが労使協議の報告の中に網羅され、労使間での認識の違いが生じました。また秋田港では、元請けによる取り扱い貨物の拡大申請の動きがあり、地域事前協議の重要性が浮き彫りになっています。産別労使の関係では中労委あっせん課題が残っています、中労委のコメントなどで直接的に結論を求めるのは難しいですが、これまでの全国港湾の運動に自信を持ち段階的にも解決を図っていきましょう。

大港労組・小嶋敏弘

組合員の皆様、ご家族の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのことお慶び申し上げます。

本年四月には統一地方選挙が行われ七月には参議院議員選挙が行われます。国民には安倍政権を追い込める年です。

港湾では最近十年の賃金引き上げ額は年平均三千円未満であり到底納得できる金額ではありません。

一般産業並みの賃金を確保するには、適正な港湾運送料金確保が必要であり、中小零細な企業の港湾運送事業者が、船社や大手荷主企業に対して適正な料金確保が出来ていない状況です。更に本年十月には消費税率一〇％に引き上げる予定です。そうなれば労働者の社会保健等の負担増になり本年の春闘の闘いは、賃金はもとより港湾労働者の福利厚生や待遇の改善など労働条件の更なる向上をめざす闘いになります。

安倍政権は、賃金は上昇していると言い切っていますが、安倍政権は大企業だけを優遇することしか考えていません港湾労働者や中小企業の賃金が伸びないは労働者に正当な分配をしなくなった大資本の影響が多大です。更には人国管理法を改正し外国人労働者の労働環境も整備せずに海外の労働者を増やそうとしています。

この事は十年近くで爆発的に増加している派遣労働者・非正規労働者と同じような労働トラブルに拍車をかけることになります。港湾労働組合は賃金だけではなく働きやすい環境づくりやかですが、人間が人間であるための願いを実現するための港湾産別のたたかいがはじまったのは、半世紀も前のことです。

自然災害は、対策を講じれば免れることができますが、政治や経済活動の結果生まれる災・人災は、仲間が力を合わせ、労働組合としてたたかわなければ跳ね返すことはできません。

今年はラグビーワールドカップの年です。力を合わせて、一歩押されれば、二歩押し返す。「亥」の押しで、文字通り港湾労働者のスクラムで仲間の「息災」を港に定着させる年にしたいとたいと思います。

全国港湾・玉田雅也

新年あけましておめでとうございます。本年が港湾の仲間とご家族の皆様にとって、すばらしい年になることを心よりお祈りいたします。

亥年は「無病息災」の意味があるともいわれます。皮肉なことに、昨年を象徴する漢字は「災」とされたことを思えば、今年こそは と期待がふくらみます。

無病は、言葉通り病気がなく、壮健なことですが、息災は、仏力で災害を消滅することが原語とされ、無事・達者との意味に使われています。そうありたいとジョギングやフットネスクラブで健康維持に努力されている方も多いと思います。

健康を維持し、人間らしく働き続けるために八時間働き、八時間眠り、残りの八時間は余暇など自由に自分が使うと要求を掲げて、シカゴの労働者がストで決起したのは一三三年前のことでした。これがメーデーの始まりとされています。

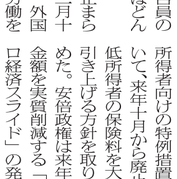
昨年「働き方改革」という名の労働法制改悪が強行採決され、定額で残業させ放題という働かせ方ができるようになりました。労働時間の歴史が一世紀以上も前に戻ったというのは言い過ぎでしょうか。働く者にとって、この労働法制改悪は、「災」、人災です。

港湾には、先輩たちの努力で確立した八時間労働制の産別協定があります。せめて、日曜や祝日くらい休みたいと要求し、日曜日にストライキを決行したと記録されています。いわば、「無病息災」という、ささやかな願いを実現するための港湾産別のたたかいがはじまったのは、半世紀も前のことです。

自然災害は、対策を講じれば免れることができますが、政治や経済活動の結果生まれる災・人災は、仲間が力を合わせ、労働組合としてたたかわなければ跳ね返すことはできません。

今年はラグビーワールドカップの年です。力を合わせて、一歩押されれば、二歩押し返す。「亥」の押しで、文字通り港湾労働者のスクラムで仲間の「息災」を港に定着させる年にしたいとたいと思います。

全国港湾・市川康太郎



明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願い致します。組合員の皆様にとって、昨年はどんな年でしたか。

安倍政権の暴走が止まらない。臨時国会は十二月十八日に閉会しましたが、外国人労働者の使い捨て労働を一層ひどくする入管法の改正、企業の参入を認める漁業法の改正、水道の民営化を許す水道法の改正など、まともな審議無しで強行採決を繰り返し、十二月十四日に沖縄の辺野古新基地建設で県民の民意を踏みにじり、土砂投入が強行された。

安倍政権は、新たな中期防衛力整備計画（中期防、二〇一九～三年度）の予算総額を過去最高の二十七兆円超とする方針を決めた。一方で七十五歳以上の後期高齢者が支払う医療保険料を最大九割軽減する低所得者向けの特例措置について、来年十月から廃止し、低所得者の保険料を大幅に引き上げる方針を取りまとめた。安倍政権は来年、年金額を実質削減する「マクロ経済スライド」の発動も狙っている。消費税増税と共に医療保険料の軽減廃止を許すは、高齢者の生活と健康の悪化は一層深刻になる。死ねと言うのか！

年末（十二月十四日）に「安倍政権による憲法改悪に反対する集会」が労働弁護団の主催で取り組まれた。一月二十一日には「憲法・安保法制を考える」学習会が二〇労組の主催で開かれる。憲法を暮らしと政治に徹底させることが、国の安全・安心と国民の安定につながる近道です。

激動が予想される二〇一九年を迎え、私は、全国港湾の一員として、産別運動の一旦を担えれば幸いと思います。

今年が組合員の皆様にとって良い年になりますように。